

### 次期評議員の選挙に投票を！

早いもので、2年任期と定めている本会の次期評議員を選出する時期となりました。前号の学会ニュースで会員の皆様には告知しましたが、ここに選挙管理委員会の立ち会いのもと投票用紙を同封しましたので、以下の要領で多くの会員が投票していただきますようお願いいたします。なお、念のため選挙管理委員会の公示1号を再度下に明記しておきました。また、本会の選挙細則により、選挙権、ならびに被選挙権は2008年7月1日現在の会員に限って付与されていますので、ご不明の方は、前号のニュースに同封しました本会の『被選挙人名簿』を参照下さい、従いましてそれ以降に入会の方にはニュースのみの送付となります。

### 第1回講演会報告

12月6日(土)に法政地理第一回講演会が、渡辺悌二准教授(北海道大学地球環境科学研究所地球圏科学部門陸域環境ダイナミクス分野・環境科学院地球圏科学専攻陸域環境科学コース)を招いておこなわれた。講演は、「パキスタン北部・フンジェラブ国立公園における人間・生態系の持続性」と題し、自然地理と人文地理の両域にわたる内容であった。参加者は本学地理学科の学生を中心に40名が集まった。参加者の中には、渡辺先生とフィールドを共にし、研究されている日本大学の水嶋一雄教授とその学生の姿もみられた。

講演会は13時に開始した。初めに渡辺先生の研究活動について紹介があり、その後渡パキスタン北部・フンジェラブ国立公園での研究成果についての講演へと移った。講演内容は、フンジェラブ国立公園とワヒ族の暮らすシムシャル(Shimshal)村が対立する背景と原因、この地域の抱える問題について話された。

シムシャル村はワヒ族による村で、パキスタン北部の国境付近に位置する。驚くことに、カラコルムハイウェーから標高約3000mにある村までは、徒歩3日かけて現地へ入るそうだ。スライド中に示された写真には、急崖の岩肌を大きな荷物を背負いながら這って登る様子が示され、この研究における現地調査の大変さをおもわされる。

シムシャル村とフンジェラブ国立公園との対立はフンジェラブ国立公園が設立したことに始まるという。フンジェラブ国立公園は、マルコポーロシープやブルーシープ、アイベックス、ユキヒョウなどの野生動物の保護を目的として1975年に設立された。しかし、この国立公園の作られた土地は、ワヒ族が暮らすシムシャル村と接し、更にはワヒ族の夏期の移牧の地であるシムシャルパミール(標高4000mを超える)を含んでいる。パキスタン政府は、フンジェラブ国立公園を人間の居住を認めないIUCNカテゴリーに設定することを望んでおり、シムシャル村に大きな圧力を加えているそうだ。しかし、年降水量が約300mmと非常に乾燥したシムシャル村では、家畜の飼料となる草が十分ではなく、移牧によってのみ家畜の飼料を確保できる。夏期にシムシャルパミ

ールで作られるチーズやバターがワヒ族の収入源のほとんどであり、国立公園内に位置するシムシャルパミールへの移牧なしではワヒ族の生活は成立しない。そこで、シムシャル村は自ら SNT (Shimshal Nature Trust) を組織し、フンジェラブ国立公園からの外圧に対抗している。スライド中の写真には、羊の搾乳をおこなう女性や、岩塊の間に生えた草を家畜に食べさせながら歩く羊飼いの姿が映し出されていた。夏期に訪れた際に撮った写真であるそうだが、どの人も厚手の上着を羽織っておりいかに厳しい環境で生活しているのかを伺い知ることができる。

シムシャル村を取り巻く環境は、シムシャルによって国立公園内の一部に設けられたハンティングエリアでおこなわれるトロフィーハンティングによって、さらに大きく変わりつつあるという。ブルーシープやアイベックスのうち角のサイズが大きい個体を対象として捕獲を認め、1頭捕獲するごとにライセンスを発行する。発行されるライセンスは、シムシャルコミュニティに莫大なお金をもたらし、この収入は移牧による収入を超える。国立公園側はこれを黙認しており、SNT が国立公園の存在を認めるための第一歩としている。トロフィーハンティングによって簡単に得られる現金は、ワヒ族にとっての生活の基盤であった移牧が軽視され、ワヒ族のアイデンティティーが損なわれる原因になるのではないだろうか、と、渡辺先生は懸念されていた。今後、トロフィーハンティングは、2006年に開通したジープ道路の開通によってさらに盛んになると予想される。トロフィーハンティングや観光による自然資源の利用がもたらす生態系の変化や、それに伴うワヒ族の生活様式の変化など、シムシャル村を取り巻く環境はさらに大きく変貌していきだろうとして、今後のさらなる研究の重要性を訴えておられた。講演終了後、会場からは多数の質問があり、関心の高さがうかがわれた。

14時50分から16時まで懇親会が開かれ

た。懇親会では渡辺先生を囲み講演内容や他の研究についてそれぞれに話し、意見交換などをして盛り上がった。渡辺先生に現地調査のことを伺うと、現地での何か月ものテント生活の中で、様々なハプニングや怖さ、それらに対処する大変さを話してくださった。文字通り世界中を飛び回って調査、研究をおられる渡辺先生の現地での貴重なデータや、調査の様子を垣間見ることができたことは、地理学を学ぶものにとって大変に意義のある講演であった。

ご多忙中、すばらしい講演をしてくださった渡辺悌二先生に感謝いたします。

(高瀬伸悟 記)

## <卒業論文発表大会のお知らせ>

地理学科卒業論文発表大会を下記のように行います。

日時：2009年1月24日(土)9:30頃開始予定

場所：外堀校舎5階F505、F506、F507教室

地理学科主催、法政大学地理学会協賛となりますので、ふるって御参加下さるよう、お知らせします。